

開校30周年を迎えるにあたり

－令和6年度当初の御挨拶－

ソメイヨシノはもう卒業式のものになった、と勝手に思っておりました。しかし、今年は思いのほか3月が冷え込み、その盛りを見せたのはちょうど入学式・始業式のときでした。翌日は嵐のような天気でしたが、多くはこれで散るだろう、という予想に反し、諏訪中学校の桜には、3月に卒業していった90名の入学を祝福するかのように、そのたくましさすら感じさせる薄桃が華やかに咲き誇っていました。

保護者並びに御家族の皆様、御子様の御入学・御進級、誠におめでとうございます。御挨拶が遅くなって申し訳ございませんでした。

新入生36名をお迎えし、全校375名の子供たちで令和6年度を始めます。

学校だより等でもお知らせをいたしました。本年度本校は開校30周年を迎えます。本校が今後さらに発展すべく、この契機を大切にしたいと思っております。すでに、先日は航空写真の撮影を行いました。担当教員による計画の下、確実に実施しました。子供たち一人一人が自分の位置を認識しながら役割を確認した後、空を飛ぶ撮影機が昨年度末に決定したキャラクターを写真に収めました。彩り豊かな1枚になる、と今からワクワクします。

これも学校だよりの内容と重複しますが、お許しください。今年度は大きな盛り上がりをもって時間が過ぎると予想しています。しかし、逆に考えたときに「ではその後は?」「そもそも今までは?」という本校の教育活動のあり方についての問いが生まれるかもしれません。ですから、子供たちには「学校の誕生日」として盛り上げながらも、まずは今までの教育活動を見直し、また今年度もこれからも活用できる内容や活動を考えていきたいと思っております。

今から50余年前に開かれた多摩ニュータウンの先駆けとして現れた、諏訪・永山地区がどのように変わってきたのか、南諏訪小学校、中諏訪小学校はなぜ開校したのか、その後どのような経緯で諏訪小学校は誕生したのか、現在の本校の特色は何か、などいくつかの問いを子供たちなりに解決することができます。また、周囲の環境の特色は、と問われたらどのように答えるか、それも地域を学ぶ上での重要なこととなりましょう。そして、未来を見据えながら、子供たちが本校を、諏訪の地を、そして多摩市をどのようにすべきかと考え、持続可能な社会の形成者として活躍する資質や能力を育てたいと考えています。

長くなって恐縮ですが、しかし、以上のことは、実は子供たちが今までにも触れてきたことであり、また栽培活動や野菜の販売を始めとする活動は確実に定着をしてきたことであります。改めて振り返るよい機会としながらも、今までの学びを十分に踏まえつつ、30周年だからこそ大切にすること、と、平素から淡々とかつ確実にやっていくことを軸にしながらか教育活動を進めてまいります。

皆様には、改めまして本校の教育活動に御理解と御協力を賜りたく、お願い申し上げます。

令和6年4月30日
多摩市立諏訪小学校長
齋藤 幸之介